2025年度 一般選抜入試Ｂ日程（後期）

英　語

1 解答

問１． ア　**問２．** ウ　**問３．** ウ　**問４．** イ
問５． ア　**問６．** エ　**問７．** ウ　**問８．** エ
問９． イ　**問10．** ウ　**問11．** ３番目：ア　５番目：エ　**問12．** イ
問13． ウ・カ

全訳

《宇宙ゴミという人災の解決に向けて》

1　66年前，地球の軌道上に人類が作った人工物が一つあった。それはスプートニクという世界初の人工衛星で，1957年10月に打ち上げられたものだった。今，地球を回っている人工物がいくつあるか当ててみてほしい。準備はいいだろうか？

2　「100兆個」だと言い当てたのでなければ，あなたの答えは間違いである。これは，驚くほどの数字だ。この数字は，科学誌『サイエンス』に寄稿している国際的な研究者チームによって提供された。何年もかけて，こうした金属等の廃品，くず物は地球の近くでどんどん大きくなってきた。それは宇宙船にとって危険なものになっている。研究者たちは，宇宙にある衛星の数とゴミの量を制限する国際的な条約を求めている。

3　「軌道の人工物の残骸を最小限に抑えることを目指す国際的な条約は存在しない」と科学者たちは書いている。彼らは，それは変わらなければならない，しかも速く，と言っている。「私たちは，地球の軌道を守るために適切なタイミングで法的拘束力のある条約を作るために，科学の知見を得て，全体で協力することが必要である」

4　軌道上には，9,000個の稼働中の衛星があると，科学者たちは報告している。その数は，2030年までに60,000個を超える可能性がある。その100兆という数字のうち，あと残りは，使い終えた補助推進ロケット，ロケットや人工衛星などから外れたボルトから，金属片や塗装の破片まであ

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

らゆるものを含んでいる。

5　塗装の破片を無害だと思ってはいけない。時速 17,500 マイルで移動していて，それは宇宙船に激しくぶつかる可能性がある。国際宇宙ステーションには，へこみや穴が点在している。宇宙飛行士たちが，通り過ぎる宇宙ゴミの大群をやり過ごすために，接続された宇宙船に避難することはよくある。そうすれば，もしステーションがひどく損傷しても，急いで立ち去ることができるのだ。

6　こうした破片のすべては，最終的には地球に落下し，大気圏で燃え尽きる。しかし，私たちは，落ちてくるより速く，新たなゴミを作り出している。

7　私たちが宇宙に散らかしたものは，私たちが海に散らかしたものと似ている。太平洋ゴミベルトを思い浮かべてみてほしい。それは，テキサス州の 2 倍の大きさの浮かぶゴミの塊だ。私たちは，海を汚すのに何世紀もかけてきた。しかし，宇宙で同じことをするのには，ほんの数十年しかかかっていない。

8　そのため，『サイエンス』の著者たちには，衛星技術と海洋プラスチック汚染の専門家が含まれている。「海洋生物学者として，宇宙に関する論文を書くとは想像したこともなかった」とヘザー=コルドウェイは書いている。彼女はロンドン動物学会で勤務している。宇宙の清掃には「海での環境問題に取り組む際の課題と」多くの共通点があると，彼女は言う。

9　コルドウェイと彼女の共著者たちは，宇宙に希望を見出している。彼女たちは，海洋を浄化する取り組みに注目している。2022 年 3 月，170 カ国が，国連で国際プラスチック条約に署名した。これは，海へ捨てるプラスチックの量を減らし，すでに存在するものを取り除くという協定である。打ち上げごとに発生させてよいゴミの量に関する同様のルールができるかもしれない。古い衛星は，宇宙から取り除かれるかもしれない。そして，ゴミを掃除するための技術が開発されるかもしれない。

10　共著者のモリバ=ジャーは，テキサス大学オースティン校の航空宇宙工学の教授である。「海洋ゴミと宇宙ゴミは」どちらも「避けることができる人災」なのです，と彼は書いている。

解説

問 1． 下線部(1) unless は「～でない限り」という意味なので，ア.

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

except if ～「～する場合を除いて」が適切である。イ．even if ～「たとえ～だとしても」，ウ．since「～なので，～以来」，エ．no matter how ～「たとえどんなに～でも」は，いずれも不適切である。

問２． 下線部(2)の It は前文の That を言い換えているので，100 trillion を指すが，That の補語になっている a jaw-dropping number「驚くような数字」も同じことだと考えられるので，ウが適切である。

問３． 空欄Ａを含む文の意味は，「研究者たちは…国際的な条約を［　A　］ている」である。動詞（call）と目的語（a global treaty）をつなぐには，ウを入れて call for ～「～を求める」とするのが適切である。アは call over ～「～を呼び寄せる」，イは call forth ～「～(勇気や性質など）を引き出す」，エは call up ～「～に電話をかける」となり，いずれも不適切である。

問４． 下線部(3)の that は must change の主語になっているので名詞である。イ.「ハニー，それを取ってくれる？」の目的語 that が名詞なので，これが適切である。ア.「弟が試験に合格したという知らせは，私たちをうれしくさせた」は，news の内容を表す同格の that で接続詞である。ウ.「昨年科学賞を受賞した女の子は誰だったの？」は，that の後ろが動詞で主語がないので，the girl を説明する主格の関係代名詞である。エ.「マネージャーは私たちに，ドナルドが解雇されたと知らせた」は，inform *A* that S V で「*A* に～だと知らせる」という意味なので，目的語を導く接続詞である。オ.「彼女が私のメールに返事をしなかったのは変だと思った」は，前の it が形式目的語でその内容を表す接続詞である。

問５． 下線部(4)の collective は，collect「～を集める」の形容詞で「共同の，全体の」，cooperation は「協力」である。よって，ア．teamwork「共同作業」が適切である。イ．contact「接触」，ウ．further efforts「さらなる努力」，エ．individual support「個々の支援」は，いずれも不適切である。

問６． 下線部(5) That を含む文の意味は，「それは，2030 年までに 60,000 個を超える可能性がある」で，that は数が増えるものである。前文に 9,000 active satellites「9,000 個の稼働中の衛星」とあるので，エ.「稼働中の衛星の数」が適切である。ア.「ゴミの量」，イ.「2030 年」，ウ.「科学者の数」は，いずれも不適切である。

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

問７． Traveling は分詞構文で，主語と接続詞を補うと As it is traveling となる。it は前文の a paint chip「塗装の破片」を指しているので，下線部(6)の意味は「時速 17,500 マイルで移動していて，それ（塗装の破片）は宇宙船に激しくぶつかる可能性がある」となり，ウが適切である。

問８． That way は副詞句で，下線部を含む文の意味は，「そうすれば，もしステーションがひどく損傷しても，急いで立ち去ることができる」である。この内容から that は前文の「宇宙飛行士たちが，通り過ぎる宇宙ゴミの大群をやり過ごすために，接続された宇宙船に避難すること」を指しているとわかるので，エ.「大量の宇宙ゴミによる危険に備えるために，宇宙飛行士は接続された宇宙船をよく使う」が適切である。ア.「宇宙飛行士は，宇宙ゴミの群れが通過した後で，接続された宇宙船に移動することがよくある」，イ.「宇宙飛行士は，宇宙ゴミの大群による損害を避けるために，自分たちの宇宙船の位置をよく変える」，ウ.「国際宇宙ステーションよりも大きな宇宙ゴミに接触する危険性があるとき，宇宙飛行士は接続された宇宙船のかげに隠れることがよくある」は，下線部がいずれも本文と一致しないので，不適切である。

問９． do the same は「同じことをする」という意味で，前文の動詞 foul を表している。よって，イ.「汚す」が適切である。

問10. tackle は「～に取り組む」という意味である。もっとも意味が近いのはウ．working out ～「(問題）を解決する」である。ア．bringing up ～「(問題）を話題に持ち出す」，イ．pulling down ～「～を引き下ろす」，エ．tracing ～「～の跡を追う」，オ．throwing ～「～を投げる」は，いずれも不適切である。

問11.「海洋を浄化する」を clean up the oceans,「取り組みに注目する」を「努力に目を向ける」と考えて，look to the effort to とつなぐ。look は目的語を直接とることができないことに注意する。並べ替えると They look to the effort to clean up the oceans(.) となる。

問12. 下線部(11)の意味は「国際プラスチック条約」で，その内容は後続の文（This is an …）に「これは，海へ廃棄するプラスチックの量を減らし，すでに存在するものを取り除くという協定である」と書かれているので，イが適切である。

問13. 第５段第１文（Don't think a …）に「塗装の破片を無害だと思っ

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

てはいけない」とあるので，ウが適切である。また，最終段最終文（“Marine debris and …）に「『海洋ゴミと宇宙ゴミは』どちらも『避けることができる人災』なのです」とあるので，カも適切である。ア.「前から」は第１段第１・２文（Sixty-six years ago, … in October 1957.），イ.「条約が成立した」は第３段第１文（“There is no …），エ.「一部」は第６段第１文（All of this …），オ.「テキサス州と同程度」は第７段第３文（It's a mass …）の内容と一致しないので，不適切である。

2 解答

問１. エ　**問２.** イ　**問３.** エ　**問４.** イ
問５. ア　**問６.** エ　**問７.** イ　**問８.** イ
問９. エ　**問10.** イ　**問11.** ウ　**問12.** ３番目：イ　５番目：ア
問13. ア

全訳

《都市伝説》

1　ビッグ・アップルに行ったことはあるだろうか？　その通り。ニューヨーク市のことを言っているのだ。近いうちに訪れるなら，地下に降りて地下鉄を使うときには気をつけたほうがいいかもしれない。というのも，街の通りの下には危険が潜んでいるのだから。

2　どんな危険だろうか？　鋭い歯と強いかみつきを持っている類のものだ！　市の下の下水道がワニだらけであると知っていただろうか？　私たちの友人によると，そこはアメリカ南部の湿地帯のようなものだそうだ。

3　どうやら，何年も前に南部出身の人たちがニューヨークに引っ越し，ペットとしてワニを連れてきたようだ。時が経つにつれて，彼らの中にはワニに飽きて，ただ下水道に捨ててしまった人もいて，そこで何年もかけて数が増えたというのだ。

4　これは本当だろうか？　いいえ！　でも，これを本当だと思っている人がどれほど多いかを知ったら驚くかもしれない。「ニューヨークの下水道にいるワニ」という話は，現代でもっとも長く語り継がれている都市伝説の一つだ。

5　都市伝説とは，人から人へと伝わる現代の作り話である。本当のこととして語られるが，それらのほとんどは，全てではないにしても，ほぼ嘘である。嘘にもかかわらず，多くの人に広まる。なぜなら，それらは最新ニ

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

ュースのように人から人へと伝わるからだ。

6　もちろん，ほぼ真実の都市伝説も少しはある。それらは実際の出来事に基づいているが，時が経つ中で少しの真実を含んだ空想話へと発展した物語だろう。

7　都市伝説がどのように始まるのか，はっきりとわかっている人はいない。あまりにも広まっているため，それらの出どころをたどるのはほぼ不可能だ。それどころか，それらはどこからともなく出現したように思えるのだ。

8　都市伝説には「事実」の形をしていて，実はそうでないものもある。また，物語として語り継がれているものもある。中には，特定の人や行動について警告するのに役立つ，警鐘を鳴らす話になるよう作られた都市伝説もある。純粋な娯楽のための都市伝説もある。

9　なぜ都市伝説はこんなにもすばやく広まるのだろうか？　その理由の一部は，話そのものと関わっている。それらは単純に面白いのだ。さらに，それらはまるで友達から聞いたかのように伝えられることもよくある。話にもっともらしい感じがあって，友達から伝えられたもので，楽しくもあれば，当然伝えたくなるものだろう？

10　あなたも一度や二度は聞いたことがあるかもしれない有名な都市伝説は以下のようなものだ。

- 善きサマリア人：この話はいろいろな形で長年あるものだ。話の基本的な要点は，ある善きサマリア人が，タイヤがパンクしてしまった人を助けるために立ち止まるというものだ。運転手は，お礼を送ることができるようにその善きサマリア人の住所を尋ねる。後日，その善きサマリア人は，ある有名人から１万ドルの小切手を受け取るのだが，その人物が偶然立ち往生していた運転手だったのだ。

（中略）

- 消えるヒッチハイカー：いろいろな形で長年伝えられてきた，よく知られた別の話は消えるヒッチハイカーについてのものだ。たいてい話はこんな風に進む。あるドライバーが，寂しい田舎道でヒッチハイカーを車に乗せる。彼女の家で降ろすとき，振り返ると彼女の姿が後部座席から消えているのだ！　家のドアベルを鳴らすと，そのヒッチハイカーは何年も前に実は亡くなっていて，彼女を乗せた長く伸びたあの道路で亡くなったのだと知る。気味が悪くないかい？

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

都市伝説には，少し怖いものもある。面白いものもある。中には教訓を伝えようとするものもある。他にも知っている都市伝説はあるだろうか？こうした話を伝えるのは楽しいが，必ず真偽をよく調べよう！　それが作り話だと知っているのに，本当の話として人に伝えるのは，決してよいことではないのだ。

解説

問1． 下線部(1)の意味は「鋭い歯と強いかみつきを持っている類のものだ」で，そのあとに alligators「ワニ」が出てくるので，エが適切である。アはニューヨークの愛称である。

問2． 下線部(2)の意味は「時が経つにつれて，そのうち」である。もっとも意味が近いのは，イ.「しばらくして」である。ア.「昔々」，ウ.「暇つぶしに」，エ.「急速に」，オ.「しばらくの間」は，いずれも不適切である。

問3． 下線部(3)の意味は「都市伝説」で，第5段第1文（An urban legend …）に「都市伝説とは，人から人へと伝わる現代の作り話である」とあるので，エ.「人々が伝える現代の作り話」が適切である。ア.「千年以上もの間伝えられてきたよく知られた伝説」，イ.「何世紀にもわたり，少数の限られた人々にだけ伝えられてきた秘密」，ウ.「かつてはよく知られていたが，もうほとんどの人が知らなくなっている秘密の伝説」は，いずれも不適切である。

問4． 空欄Aを含む文の意味は，「嘘である［　A　］，多くの人に広まる…」である。この文脈に合うのは，「にもかかわらず」や「であるが」など譲歩を表す表現なので，イが適切である。Despite の後ろには名詞がくるので，being は動名詞だと考える。ウ．If は being を分詞だと考えると，文法的に完全に間違いとは言えないが標準英語ではなく，前文に「ほぼ嘘」という事実があるので，仮定「もし嘘ならば」は文脈にも合わない。エ．Unless「～である場合を除いて，～でない限り」も文脈に合わない。

問5． 下線部(4)は，前文の a few urban legends that are mostly true「少数のほぼ本当の都市伝説」を指す。アが適切である。

問6． 下線部(5)の意味は，「都市伝説がどのように始まるのか，はっきりとわかっている人はいない」である。for sure は「確かに」，get started は「～が始まる」という意味である。これにもっとも近いのは，エ.「都市伝説の起源は不明のままである」である。ア.「都市伝説の起源を知ら

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

ない人は存在しない」，イ.「誰もが都市伝説の結末にきっと気づいている」，ウ.「都市伝説の結末をはっきり知っている人はいない」は，いずれも不適切である。

問7. 空欄Bを含む文の意味は，「それどころか，それらは［ B ］出現したように思える」である。この段では都市伝説の起源はわからないと述べていることから，out of に注目して out of nowhere「どこからともなく」とする。よって，イが適切である。アは out of date「時代遅れ」，ウは out of necessity「やむを得ず」，エは out of order「故障中」となり，いずれも不適切である。

問8. serve to *do* で「～する役目を果たす，役立つ」という意味になる。これにもっとも近いのは，イ．are used「使われる」である。ア．give away ～「～を手放す」，ウ．imply「～をほのめかす」，エ．obey「～に従う」，オ．distribute「～を分配する」は，いずれも不適切である。

問9. 下線部(7)の意味は，「当然伝えたくなるものだろう？」である。Why not *do* ～? は反語で「なぜ～しないのか（するのが当然だろう）」を表す。よって，エが適切である。

問10. 空欄Cを含む文の意味は，「この話はいろいろな形で長年［ C ］」である。S be around で「Sが存在している，Sが周りにある」という意味になるので，イが適切である。ア．among，オ．under は後ろに名詞が必要で，ウは be in ～「～が到着する」，エは be on ～「～が作動中」となり，いずれも不適切である。

問11. 下線部(8)を含む文の直訳は，「たいてい話はこう進むように」である。as は接続詞で「～のように」の意味なので，同じ用法のものは，ウ.「あなたは言われたようにやらなければならない」である。ア.「彼女は40年以上教師として働いていた」は前置詞，イ.「彼女は兄と同じくらい頭がよい」は比較級を作る副詞，エ.「実は〔事実の事柄として〕，私はホラー映画が嫌いだ」は前置詞である。

問12.「必ず～するように」は命令文であり，make sure S V で表せる。「真偽を確認する」は look into ～「～を調査する」で表せる。並べ替えると（but）make sure you always look into them(!) となる。

問13. 第5段第2文（They are told …）に「それらのほとんどは，全てではないにしても，ほぼ嘘である」とあるので，アが適切である。イ.

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

「どれも，単なる娯楽のためのものに過ぎない」は第８段第３文（Some urban legends …）と同段最終文（Other urban legends …），ウ.「その場で」は第10段１つ目の項目の最終文（Sometime later, …），エ.「繁華街で」は同段２つ目の項目の第３文（When he drops …）の内容と一致しないので，誤りである。

3 解答

1－イ　**2**－カ　**3**－セ　**4**－ア　**5**－シ　**6**－コ
7－キ　**8**－ウ

解説

1.「トーマスは電車で旅行する方を好むが，彼の兄は車を運転することを選ぶ」

空欄の後の train「電車」が無冠詞なので，移動手段と考えられる。by＋交通手段より，イが適切である。

2.「サラは，今日傘を持っていくべきだろうかと思っている」

wonder if〔whether〕S V で「～するかどうかと考えている」という意味なので，カが適切である。

3.「嵐の間に屋根が崩れたその家は，すぐに修理が必要です」

主語 The house の動詞は needs で，その間に冠詞のない主語 roof「屋根」，動詞 collapsed「崩れた」があるので，関係代名詞が空欄に入るとわかる。roof を修飾する whose を入れると「その家の屋根」という意味になるので，セが適切である。whose は「人・もの」両方を先行詞にとることができる。

4.「そのチーズケーキは，かつて日本で人気だったほどには今は人気がない」

形容詞 popular「人気のある」の前に as があるので，比較表現（as 形容詞 as ～「～と同じくらい…」）であるとわかる。アが適切である。it once was（popular）in Japan が過去形なので，「かつて人気であった」時と比較している。

5.「今月になって初めて私はヒップホップダンスを習い始めた」

It was not until *A* that S V「*A* になって初めてＳは～した」という構文があるので，シが適切である。これは強調構文で，S did not V until *A*「Ｓは *A* まで～しなかった」と考えるとわかりやすい。

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

6.「アップルパイを焼くことに関しては，祖母の右に出る者はいない」
When it comes to ～「～の話になると」という表現があるので，コが適切である。next to none は「誰の次でもない」→「右に出る者はいない」という意味である。

7.「逆境にもかかわらず，彼らはさらに努力して夢を追うことに決めた」
decide to *do* で「～することを決める」という意味なので，空欄には動詞の原形が入る。よって，キが適切である。go the extra mile は「一層努力する」という熟語である。the odds は「可能性」という意味で，despite the odds で「逆境にもかかわらず」となる。

8.「偉大な発見は，本能とたゆまぬ日々の努力を通して成し遂げられる」
instinct「本能」や tireless daily efforts「たゆまぬ日々の努力」が Great discoveries「偉大な発見」をするための過程であると考えて，ウ．through「～を通して」が適切である。受動態の文なので by も考えられるが，イは 1 で使用済みである。

4 解答

1—ア　**2**—エ　**3**—ア　**4**—イ　**5**—ウ　**6**—イ
7—エ　**8**—エ

解説

1. 空欄の直前の that は knew の目的語を作る接続詞で，空欄から dreams までが is の主語になっている。it takes *A* to *do*「～するには *A* が必要だ」で，*A* に関係代名詞節を付けた *A* (that) it takes to *do* という形だと考える。*A* は主語になる名詞なので，ア．all「すべてのもの」か，オ．whatever「どんなものでも」が考えられるが，オでは意味が合わないので，アが適切である。All (that) it takes is ～「必要なのは～だけである」は，頻出定型表現である。

2.「これ以上ないほど悪い」は「より悪い可能性はない」と考えて，エ．worse が適切である。couldn't be worse / better は「より悪い / 良いことはあり得ない（＝最低 / 最高だ）」という意味の決まり文句である。

3.「賛成票を投じる」とあるので，vote in favor of ～「～に賛成して投票する」になるアが適切である。

4.「～も同然である」は be as good as ～ が定型表現なので，イが適切である。

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。

5.「大したことではない」は it's no big deal で表せるので，ウが適切である。

6.「継続する」には keep at it「がんばる，根気よくやる」という決まり文句があるので，イが適切である。

7.「割り勘にする」は split the bill で表せるので，エが適切である。

8.「～ともあろう人が」には of all ～（～は複数名詞）「（驚いて）数ある～の中で，こともあろうに」という決まり文句があるので，エが適切である。of は「～のうちで」の意味である。

© Sekaishisosha-Kyogakusha Co., Ltd.
無断複製・転載を禁じます。